

SOWER

座談会 二十一世紀を語る

ソア=種まく人

No.10

June 1997

財団法人
日本聖書協会



神のことば
すべての人の
いのち

聖書を贈りましょう

あなたに贈るちいさな聖書

愛

結婚する二人に贈る
聖書の言葉

選 三浦綾子

好評
発売中



絵 葉 祥明

本文 新共同訳聖書からの抜粋
装丁 新書判 40ページ
品名 NI663P-1
定価 (本体 476円+税)

新共同訳聖書 ハンディバイブル

中型B6判

聖書

◆ビニールクロス装
軟表紙 ジャケット掛け
NI34H 定価(本体2,400円+税)



NI34H

聖書

◆皮装
ケース入り 三方金
NI38H 定価(本体7,600円+税)



NI38H

聖書 旧約続編つき

◆ビニールクロス装
軟表紙 ジャケット掛け
NI34DCH 定価(本体2,600円+税)



NI34DCH

財団法人 日本聖書協会

〒104 東京都中央区銀座4-5-1

電話 03-3567-1987(ダイヤルイン) FAX. 03-3567-4436

●ご注文はお近くのキリスト教専門書店、または全国の書店へ
(直接当協会にご注文戴く場合、別途荷造送料がかかります)
●カタログ請求、お問い合わせは左記まで

SOWER
ソア No.10

1997年6月1日発行[年2回6月・12月発行]

発行・財団法人 日本聖書協会 〒104 東京都中央区銀座4-5-1 電話 03-3567-1980 振替 00160-2-18410



この雑誌は
エコマーク認定の
再生紙を
使用しています



ツインの荒れ野

夕日に赤く映えるツインの荒れ野。モーセに遣わされた十二人の偵察隊は、この荒れ野からカナンの地に潜入して行きました。そして一房のぶどうを棒に下げ、二人で担いで帰ってきました。「そこは乳と蜜の流れる所でした」とモーセに報告します。一方「そこに住み着こうとする者を食い尽くすような土地だ。我々が見た民は皆、巨人だった」と恐怖心をあおりたてる偵察隊員もいました。その為に主の約束が信じられなくなった民が死に絶えるまでの四十年間、イスラエルの民がカナン入りすることは許されませんでした。

現在、ツインの荒れ野を見渡す台地に、ベングリオン大学付属の砂漠研究所が建てられ、人間が砂漠で生きる為の農業、牧畜、太陽熱利用の家屋、塩分を含んだ地下水の利用法など興味深い研究が行われています。それらの独創的な研究成果は、国内はもとより世界の砂漠を抱える発展途上国のためにも大いに貢献しつつあります。

●民数記 13章—14章

CONTENTS

Sower
No.10
1997

2 二十一世紀を語る

特集・座談会

9 総主事室

佐藤邦宏

10 エッセー⑩ 鳥羽季義「神声人語」

12 歴史接写 幻の聖書—文語改訳・旧約聖書

高木正剛

13 聖書図書館蔵シリーズ— ネーサン・ブラウン訳 『志無也久世無志与』

平和を実現する人々は、 幸いである

(マタイによる福音書 5章9節)

「怖ろしい顔付きの平和主義者は、黒い雪と同じく矛盾である」と言った人がいます。平和の源も、戦争の源も人の心にあります。ですから私たちはまず自分の心の中にある自己中心性と闘わなければならないのです。自分が“痛む”ことなしに、ただ口で軍縮、核兵器廃絶を唱え、街頭行進をしてもその効果は恒久的なものとはならないでしょう。今や、精神革命こそが求められています。自分が自分のわがまま、自我と闘い、自分と異なった考え、行動をする人々への寛容さを持ち、自分に害を加えた人々を許し、さらに、他の一人ひとりの幸せを願う気持ちを育ててゆく時、初めて平和は実現されるのです。身近な人ほど愛しにくいことがあります。今日、自分の家族、同僚に優しいねざらいの言葉をかけ、笑顔で接するよう努力しましょう。そうすることによって、私たちはこの幸せな人、平和を実現する人、神の子と呼ばれる人になるのです。

渡辺和子

ノートルダム清心学園理事長

二十一世紀を語る

2度の不幸な世界大戦を経験した20世紀は、国際社会の混迷の中で暮れようとしている。地球的規模の環境問題や人口増加問題、迫り来る高齢化社会。今や21世紀を漠然と夢見る者は少ない。この激動と混沌の時代、人々に教会は何を語り、聖書は何を指し示すのか。

出席者

一色義子

恵泉女学園理事

速水 優

日商岩井相談役

増島俊之

中央大学教授

司会 佐藤邦宏

日本聖書協会総主事

いっけいのはどの家にもあるものと思って成長いたしました。今学生に教えておりましたが、家に聖書があったとか、おばあさまが読んだとか、そういうのが大きな影響を与えているということをつくづく感じさせておりました。

そして河井道子先生から、聖書を読んでは祈るということ、私たちは御言葉に導かれてから自分の祈りをすべきたということを教えられました。

佐藤 お伺いしたいんですけど、最近東神大を出たのなら牧師になられた。

一色 はい、そうです。フルブライトの時は文科系で学びました。そこで家族代わりにお世話になった牧師ご夫妻がいて、その方の深い顧みで私は神学校でキリスト教神学、キリスト教教育を学ぶことになりました。その後四人の男の子を育てました。先手先手を打って子供を育てていこうと思ったのですが、あるところからいきなり先手を打ちきれなくなり、どうしたらいいかと思い悩んだ末に、もう御言葉を学ぶことにしか私に残されているものはないという気がして、それから東京神学大学に入ったので、人生の途中から牧師になったのです。

佐藤 速水さんは財界ですとお仕事をしてこられたわけですね。

速水 もう、社会に出て五十年になりますからね。その間、日銀、日商岩井、財界と、かなり面白い仕事をさせていただきましたから、本当にあつたという間に、気がついたら七十歳を越えていました。

一番上の兄が駒込・中里の聖学院の幼稚園に行つてましてね、そこで中川さんという保母さんに導かれて教会に行くようになって、それがきっかけになって家族と親戚もクリスチャンになりました。終戦後、復興してきてから、クリスマスに阿佐ヶ谷教会の大村勇先生から洗礼を受けました。その前後に兄が死に、下の兄も病気で急死をし、続いて父親が死に、姉が死ぬ。いろいろ不幸なことが続きました。そういう中でもいつも教会が折つてくれているということに常に覚えていたというのはよかったです。

マックス・ウェバーのプロテスタントの職業観に刺激を受けて、これは自分のこの世における職業生命だと、日本銀行で経済復興とか、後半はつと国際通貨サイドについて、無我夢中で、円とともに、円の価値をどうやって守るかというようなことで過した半生であつたわけですね。

商社で社長をやり、会長になったときに、経済同友会代表幹事をやれということ、いろいろ選りもつたんですが、「我等この宝を土の器に有て、これ優れて大なる能力の、我等より出でずして、神より出づることの顕われんためなり」、日本の変革の、日本がまことに変わるうとして、日本の変革の、日本がまことに変わるうとして、財界で働くことが神様の召命だと感じて受けたわけですね。ちやうど、自民・社会党の五五年体制が崩れて、選挙制度、政治改革法案が通り、そのころ財界の団体の一つである経済同友会という、最も個人の立場でものが言える団体でかなり切ったことを言わせていただきました。



21世紀について語る左から一色、速水、増島、佐藤の各氏。JBS会議室にて。

教会・聖書との出会い

佐藤 二十一世紀が迫っており、世紀末を暗いムードで言う人がいますが、信仰的な意味ではむしろ明るい。仮に終末が襲いかかるとしても、それはイエス・キリストとともに過す日々の始まりですから、信仰者にとっては決して暗いものではないと思います。

本日は、お若い時からキリスト者として歩み続けてこられた皆さまに、現代の社会、あるいは教会の様子を見る時にどうお感じになるのか。次の世代へ何を引き継ぐのか、どういうメッセージを私たちは託すか。広く教会の方々の気持ちも代弁していただき、教会は具体的にどうしたらいいのかお伺いしたいと思います。

一色 幼い記憶にある頃から聖書が家にありました。現在、私が教えている恵泉女学園を創立された河井道子先生と私の両親が大変親しく、先生が「神は愛なり」と教えてくださいました。小さい時から教会に行きましたし、中学に入る時も大学に入る時もお祝いはいつでも聖書でした。小学校の時にコリント人への第一の手紙十三章を全部暗記させられました。

フルブライトでアメリカへ行く時、母の友人のプレゼントも聖書だったわけで、私は聖書と

週一回、教会の礼拝に出て、社会へ戻ってなるだけ謙虚に、人を傷つけないようにということを努力するような声をいつも与えられながら、社会で働き続けられたというのは恵まれたことだったと思っております。

増島 私はキリスト教とはまったく関係のない家で生まれました。東京大学に入って駒場から本郷に移ったときに、正門のところで一人の背の高い外国人がチラシを配っていました、それを見ましたら、生きた英語会話を教えてあげますって書いてあるんです。ネイティブスピーカーから英語を教えてもらえるなんて、こんないいことはないということで、週一回行き始めたんです。そうしましたら、最初は英語会話なんですけれども、終わりますと聖書の話があるんです。聖書の話を聞きながら私が一番興味を持った点は、聖書の人間観です。

旧約、新約を通して聖書が見る人間についての深さを知りました。自分の思い悩みというのはマイナスではなくて、非常にネガティブだと思っていたことが新しい世界を見る土台になっているということが発見しました。コリント人への手紙の中にあります、そういう弱さの中に神の力が完全に宿るという言葉が、受洗の決意のきっかけになりました。

当時、行政管理局、今の総務庁に入り、行政官としての生活を三十四年間送ったわけです。家族では私が最初だったんですけれども、しかし今や、キリスト教一家になっていきます。あなたは官僚として、こういう権力の世界の

の立場にならない。人権がない。女性から見ますとね、女性の人権は全く蹂躪されているという現状はたくさん見られますよね。そういうところはやっぱり、ともに生きるということはどういうことかということ、本当に小さいときから知らないといけないと思うんですけれども。

速水 私も全く同感ですね。特に西欧と比べて「個」というものがないんですね。集団主義というのか、横並びというのか、みんなで渡れば怖くないというね。みんながやっているから自分もやるんだというのが、日本人一人一人にこびり付いた慣習であり生活になってきているように思います。

それに自分の生活、自分の考え方というのに、理念がないですね。家族と共にロンドンやニューヨークに住んで感じるのは、中流の上ぐらいから上は、みんな自分のはっきりした考え方を持っていて、主張するし、同時に相手の意見もよく聞く。それで意見が違えば、ここは自分こう思うと言っただけで自分のやり方と違っていいですね。同時に弱者、弱者へは常にそばに立っていて見ているということがあるんですね。そのへんが日本にまだない。特に戦後の教育でそういうものが育てられなかった。

私はここ数年、東京女子大学で理事長をしてありますが、この学校の初代学長の新渡戸稲造さんは、八十年前から女子の高等教育、個性教育を主張して、第一回の卒業生に贈った手紙の中に、一人一人の個性をどうやって伸ばしてい

中であって、ずいぶん板挟みになったんではないかと、よく聞かれるんですけども、全くありません。私は職業と信仰というのをずいぶん考え続けてきまして、その考え方の変遷もあるんですけども、しかし終始聖書から答えが得られたという、そういう思いがあるわけです。

日本社会の直面する危機

佐藤 ありがとうございます。みなさん、それぞれお若いころ、あるいは幼児期にキリスト教、聖書に出会い、それぞれのご職業のなかで使命感を持ち、今日までおいでになったと思います。増島さんにお伺いしたいのですが、今の日本の社会について、重大な危機とおっしゃいました。もつちよつとそのあたりをお聞きしたいのですが。

増島 日本の問題というのは何かという、いろんな言い方があると思いますが、私は高齢化社会が急速に近づいているということだと思います。

今、六十五才以上の人口が千七百万人ぐらいです。これが二〇二〇年になりますと、三千二百万人、四人に一人が高齢、そういう社会に突入していく。これは行財政という観点から、とても重い負担になってくるわけです。行政が支えることはできないわけです。それに対して全く備えないということなんです。

行政改革ということに長い間取り組んできたものですから、日本の問題、世界の問題というものを考える。考えれば考えるほど、今重大な危機ですね。私は今ほどキリスト教の出番、聖書の出る幕はないと、そういう思いです。

それから、世界の問題は、世界人口の激増だと思えますね。ちょうどイエス様のころの二千年前が二億五千万人といわれているんですけども、一万年前は五百万人なんです。で、それが一億になるのに、七千五百年かかっているんですけども、ちょうどお釈迦様のころに一億になるんですね。それで、現在の五十八億という人口の時です。毎年、現在の五十八億とか、飢餓線上にいる人が一割とかいるので、それが八十億人になり、百億人になったら、いったいどうなるのかということですね。それが今の国家の仕組みで本当に対応できるのかというと、全くその見通しはないですね。

日本の危機管理ということを言うけれども、本当は地球の危機管理が必要で、それについてなんの備えもない。だから日本も世界も結局突き詰めていくと人口問題なんです。

一色 他者に対しての配慮が本当にない。他者

難民となった人々に聖書が届けられる。ザイルのプカブに近い村で。写真提供/UBS





21世紀を生きる子供たちの未来は？ モンゴルで。写真提供/UBS

くか。知識よりも個性を伸ばすということをや
らなければだめなんだということを言っている
んですね。あの時期に、男尊女卑のときによく
あれだけのことを言われたと思うんです。
同じいと小さき者にわれわれがすることは、
キリストに、神に対してすることなんだという
その考え方というのが、常に一対一の個人との
関係が直接神と自分との関係に結びついている
ということなんです。そのところが世間体を
重視する日本の集団主義的な考え方から、あ
るいは儒教的な考え方からは出てこないと思
うんですね。人権中心の民主主義を押し進めてい
くという場合には、聖書の教えしかないように
思うんですけど。これはかなり時間の要する
、しかも理念をしっかりと持っていていくべきこ
とだというふうに思いますね。

佐藤 そうですね。

増島 今日日本の社会でこういうふうにもつてい
くべきと考えるキーワードが幾つかあるように
思うんですね。

例えば、選択肢が多いこと、自己決定権の増
大、競争の拡大ですね。それに、終身雇用制の
崩壊、年功序列制の打破、あるいは遺伝子操作
の進展とかですね。それらは、他方で大きな不
安感を与えているのではないだろうか。

年功序列制の崩壊は多くの人に不安を与えて
いる。終身雇用制の崩壊も同じです。競争の拡
大というのもギリギリ詰めていけば、弱肉強食
の世界ですよ。その世界をくぐり抜けなければ
実現できない事柄があるということも率直に

ろにくるかなという気がしますね。

速水 カウフマンというアメリカの有名な経済
学者が来た時に、アメリカはこれからは何が問
題なんだと尋ねたら、経済はそんなに心配いら
ない。心配なのは、先ほどおっしゃったように
自由競争の結果必ず弱者が出てくる、敗者が出
てくる。脱落者が出てくる。それに対して自分
がそうなるかもしれないと、みんなが不安を持
つ。それはあり得るんですね。そういう暗さ
が非常に大きな不安になっているんだと、アメ
リカでも言っていますからね。

特に日本の場合には、おっしゃるようになら
ない。平和主義とか、一国成長主義とか、そうい
う考え方が出てきやすい体質があるんですね。海外
に対して日本からは出てゆくが、日本の市場は
閉鎖して弱い企業を保護してゆくというやり方
は、フェアな競争といえないわけです。グロ
ーバルなルールを作って、それをみんなが守っ
ていくというような形で、そういう流れのなか
に日本が率先して旗を振っていかなきやいな
い立場にあります。

すべての人のいのち——聖書

佐藤 今皆さまにさまざまな問題を提起してい
ただきました。やっぱり聖書に解決の糸口を
見ます。教会がこれを正しく、この世に伝えて
いかなくちやいけない。日本聖書協会としては

八年区切りの世界の大会に合わせて、今年から
始まる八年間を「聖書で拓く 明るい心の未
来」というスローガンで、これからのいろんな
活動を進めていきたいと考えているわけなん

認めますけれども、他方で、人間の心の世界に
ものすごい不安感を与えている。また、社会に
非常に不安定感を与えています。こういう状況
の下で多くの人はいったい何が確かなのか、何
が安定感のあるものなのか、そういうものを求
めざるを得ないわけです。実は聖書の出る幕と
言ったのは、そこにつながっているからです。

一色 その不安感の中にもう一つエネルギーと
環境の危機がありますね。これは非常に大きな
問題で、戦争の問題というものがちらついてい
ると思うんですね。今世紀の初めのころのよう
に、戦争をすることによって自己保存しよう
ということが社会のなかで行なわれてきたとき
に、これはもう本当に悲惨なものです。

増島 そう思います。

一色 私は女性の立場で聖書を読むと、イエス
様が、ユダヤ人の社会の固定観念からそれを解
き放った、多様な生き方を許され、女性も人間
としてイエスは受容していく。男も女もなく人
間として地球の中で共に生きることが、イエス
の隣人愛というか、神の愛と人の愛というこ

す。最後に、次の世代に私たちは、どういう託
し方をしたらいいか、これからの社会、世界を
築いていく次の世代の方々へ、どうメッセージ
を伝えるのかをお聞きしたいのですが。

一色 一つ、生きざまが語るような気がするん
ですけれども。日本の社会の中は年功序列の考
えがありますけれども、共に生きるということが
大事です。その考えの一つの例として、九十
五歳のアメリカの女性の方が、今も米国が原爆
を落としたことはすまなかったと、核のことを
憂い続けているというのです。電話の度に、
「元氣？」と挨拶がすむとすぐ次には必ず「核は
反対ね」と一言。彼女の心の熱いメッセージが
あるんですね。それをある方に伝えたときに、
その方が、自分は原爆の被害者であるが、この
老婦人のアメリカの核が間違っていたという一
言が自分の今までの五十一一年の重荷を解いたと
いうことをおっしゃいましたけれども、やつぱ
り一つの生き方自身が語るという、最後の最後
まで生きる、御言葉によって生きる、生きざま
が語っていく。老若に関係なく若い者からも学
ぶ。そんな気がいたしますけれども。

増島 かつて、海老沢有道先生の書かれた書物
に大変感銘を受けたものですから、先生のご自
宅をお訪ねしました。日本の教会はどうしてこ
んなに宣教の实りが少ないのか、私は先生に一
番聞きたい質問をしたわけです。そのときに海
老沢先生は理由を二つ挙げられました。一つは、
日本の教会は、日本のキリスト教の歴史を勉強
していないということ、もう一つは日本のキリ

本年度から八年間の日本聖書協会の入口カンを聖書で拓くという心算の未来と定め、聖書の普及運動に努めることにいたしました。今、世界は大変革の時代を迎えようとしています。特にわが国では、諸外国も経験したことのないスピードで高齢化が進む中で、政治的、経済的にも行き詰まりが見られ、生存のための大競争の時代に入ると余儀なくされるのです。これは企業ももちろんのこと、

個人についても例外ではないと思われま。

二十世紀は、欧米の文化主導による競争の時代でした。欧米文化の中で、人々はそれなりにキリスト教の影響を受け、他者を認め、隣人を大切に受け入れる社会を作り上げ、広めてきました。しかし、これからは、欧米文化の土壌を超える広がりの中で競争時代を迎えようとしているのです。

人類の歴史は、ある意味では競

総主事室

真に心豊かな未来を目指して

佐藤邦宏

争に明け暮れる日々の積み重ねそのものかもしれない。競争もうまく機能すれば、さらに豊かな社会を生み出すことができるでしょう。しかし、もしそれが他者を顧みることなく、追い落とすことしか考えない自己保存だけを目的とした競争ならば、それこそこの世は弱肉強食でしかなく、悲惨な世となるはずだ。

神を愛し、隣人を愛する心がこの世に満ち、他者を顧み隣人と共に生きる——私たちの未来はそこ

にしかないのです。今、最も必要なことは、教会が愛のメッセージをこの世にしっかりと伝え、すべてに人が、聖書に示されたみことばによって生かされる社会を作ること、世界に示すことです。この働きなしで、世界の明るい未来はありません。聖書に示されたみことば、つまり神のご意志の実現だけが、私たちの明るい未来を約束しているのです。

なっていないということは、誰かがどこかでしなきゃならないということ、このころになって初めて自覚したわけで、聖書協会の仕事というのは、そういう状況のようなものが、いつでもそこにあるべき姿になっている気がいたします。佐藤 そうですね。私どもが一番苦労もしているところ、おっしゃる通りに、空気のよう

に聖書を在らしめるといふか、もう誰の手にも聖書を渡したい。何かの方法で届けたい。そしてもうひとつ突っ込んで関心をもってもらいたい。そしてさらに突っ込んで、今おっしゃったように、本当の解決はここにあるんだということを知らせたい。UBS（聖書協会世界連盟）の向こう八年のスローガンは「神のことはすべての人のいのち」なんです。これをわれわれも踏まえて、おっしゃるような働きを具体的に

にしかも緊急にやりたい。速水 これからわれわれはどうなっていくのかという、非常な不安を持って宗教に傾いてこようとする日本の人たちの流れに対して、教会がはつきり手を差し伸べられるかどうか、私もまったく今教会の出番だと思っし、こういうときこそ宣教していかなければいけない時期だと思



佐藤邦宏

日本聖書協会総主事。新共同訳刊行の年(1987年)に就任。新共同訳の普及と、聖書協会世界連盟の一員として、アジアやアフリカなどに聖書を贈る運動に力を注ぐ。



増島俊之

中央大学総合政策学部教授。元総務事務次官。行政改革の推進に取り組み、特に行政手続法の立案に直接の責任を担う。日本福音ルーテル本郷教会会員。



速水 優

日商岩井相談役。前経済同友会代表幹事。日本銀行勤務時代、戦後の経済復興、国際通貨の問題に取り組む。財界のリーダーとして活躍。日本基督教団阿佐ヶ谷教会会員。



一色義子

恵泉女学園大学理事。前同大学助教授。日本基督教団経堂緑岡教会牧師。同教団前総書記。日本聖書協会理事。女性の視点から人権問題に積極的にかかわり活動する。

スト教は観念として説かれていて、体験として説かれていない……そういうことを言われました。それは、私にとっては大変重みのある言葉でありました。それが今、一色先生の生きざまということに結びついてくるんじゃないかと思うのです。結局、人間の心が動かされるのはその姿を見てなんじゃないかというふうにいるわけなんですね。それでは、体験として何を説くのか。それはやっぱり、互いに愛することじゃないでしょうか。ヨハネ伝とか、ヨハネの手紙の中でも非常に面白いと思うのは、「これは古い掟である。だけれど私は、新しい掟としてこれを与える」というんですね。今の時代、あらゆる状況を見て、そういう状況の中で、まさにこれが新しい掟として語られてくる。そういう状況なんじゃないかと思ひます。

佐藤 いかがですか。速水 ペテロ前書に、万物の終わりは近づいている、だから思慮深く振る舞って身を慎んでよく祈いなさい、まずできることは、やるべきことは愛し合うことだと、そういうことを書いています。それとね、やっぱり人権尊重の民主主義というのと、自己責任の市場経済というのはこれもあまり変わっていかないと思っんです。そういう時代になっても。逆境に対して耐えられる個性を伸ばしていく、各自の力をとんとん伸ばしていく教育はもちろん必要だと思ひますけれども、すべてにまっすぐ必要なことは、やっぱり神の国と神の義を求めよ、ということじゃないですか。

増島 私は、日本の国としては危機をかなり乗り越えていくと思うのですけれども、そのときに非常に大切なものが蹂躪されていくんじゃないかという、心配があるのです。世界というもの

神声人語

鳥羽季義

エッセー

10

日本にキリスト教が伝来して長い月日が過ぎているが、その経典としての聖書が日本語に訳されてきた歴史を見ると、実に驚くほどの努力が重ねられてきたことがわかる。フランシスコ・ザビエルが日本にきた当時、神を「大日」と日本人が訳し、仏教の一種かと誤解されたため、「デウス」(ラテン語「正神」という意)という語を使うようにしたとか、ギユッラフの訳業を手伝った日本人漂流民たちは、神を日本語で「ゴクラク」と教え、それを真に受けてヨハネ伝に印刷してしまった。どれも当時の状況下ではやむをえなかったかと思われる。その後、「神」という語に訳すことができたのは中国語のお陰ともいわれている。

神の声、あるいは言葉が、人の言葉になる過程を見ると興味深い。それは翻訳を通じてなされるわけであるが、ある言語が他の言語に訳し得るということは、人間同志が共通に持つ言語の特質があるからだと言われている。もちろん、一つの言語の思想が他の言語に正しく伝わるためには、その発信言語の思想を正確に理解すること、それを間違いなく他に移す過程に、複雑な行程があることを忘れてはならない。単純な表現であればすぐ伝わるであろうが、元の内容がそのまま単語の置き換えですまされない場合もある。

例えば、ヨハネによる福音書三章三節に「人は、新たに生まれなければ、神の国を見ることはできない」と訳された箇所があるが、「新たに生まれる」という所を、ある言語では「赤子のように生まれなければ」と訳している。この箇所は原典では「上から生まれる」という意味にもとれるため、翻訳は一層困難になる。このように原文の翻訳には釈義をまずしなければならない。言い換えれば、聖書を翻訳するには解釈が前提となるわけである。このために原典に対して、歴史的、文化的な知識と言語学的理解が必要になってくる。このために翻訳者たちは新約聖書を深く

理解するためにギリシア語を学び、書かれた当時の背景や文化を知る必要がある。旧約聖書を学ぶには、ヘブライ語および近隣の諸言語の知識と歴史文化を知っていると解釈に助けとなる。最近では翻訳者のためにハンドブックが出来ていて、これらのことをすべて網羅してあり便利である。次に、訳す言語の研究が必要である。母語に訳す人は、自分の言語についてはかなり広く深い知識を持っているが、外国人が訳す時は長い時間をかけて言語を学び、調べ尽くさねばならない。普通の会話が出来るからすぐ訳せるというわけではなく、徹底した研究がなされる必要がある。一つの単語を見ても、その語の使われる世界は広いに、奥深いものがある。

日本語に聖書を訳すためにヘボンが原典を学んだだけでなく、日本語研究に心血を注いだ。その成果は「和英語林集成」として出版され、三版まで出された。版を改める度に書き直しているのを見ると、ヘボンがどれ程するどく日本語を観察していたかがわかる。彼は始めて訳した福音書には、「愛」という語を「いつくしみ」とか「このむ」という語を当てるなどの配慮が見られる。彼はそれまで陰にかくれていた「愛」に光を当て、限りなく尊い高みにまで引き上げたと言われている。

私も新約聖書にある言語に訳している時、この「愛」に当たる単語を捜していて「ルム・ムネ」という語を発見した。名詞形はなく動詞しかないのではやむをえず「神は愛なり」を「ニノワム・エ・イク・ルム・イムキ(神は私たちを愛します)」と訳した。こうしてやっと村人に神の愛がイエス・キリストを通して届いたことを伝えることができた。それを知った人々はその愛を受け入れて喜びに満たされている。

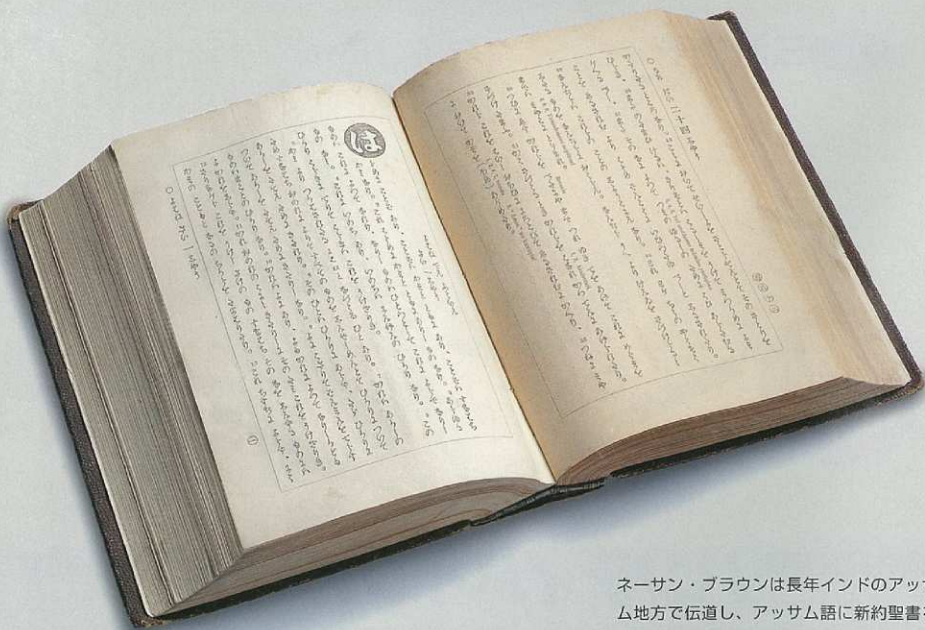


鳥羽季義 (とば すえよし)
1938年生まれ。
日本ウイクリフ聖書翻訳協会所属。

聖書図書館蔵書シリーズ—⑧

ネーサン・ブラウン訳 志無也久世無志与 (新約全書)

横浜 1879年刊
縦:23.5cm 横:16cm



ネーサン・ブラウンは長年インドのアッサム地方で伝道し、アッサム語に新約聖書を翻訳(1847年)した後、1873年、65歳の時来日した。

1874年に発足した「翻訳委員社中」の委員になったが、忠実なバプテスト教会の宣教師であるブラウンは、訳語などの問題で委員会と対立、委員を辞任して独自の翻訳を始めた。

彼の翻訳は、原典に忠実に、そしてゴープルを継承した平易な平仮名によるものであった。1875年に「馬可福音書」を刊行後、各書を翻訳し、ついに1879年に新約聖書を川勝鉄弥の協力を得て完成した。委員会訳に先んじ、日本で最初の新約聖書となった。



歴史接写

高本正剛

前日本聖書協会翻訳部主事

「幻の聖書」一文語改訳・旧約聖書

明治の前期に完成した「文語訳聖書」のうち、新約聖書については一九一七(大正六)年に改訳が出版されたが、旧約聖書の全書にわたる改訳の出版はついに実現しなかった。

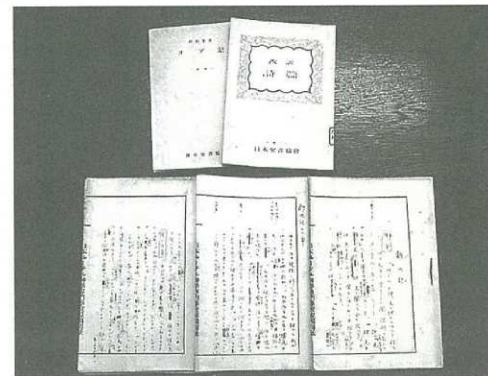
しかし改訳のための努力がなされなかったのではない。それどころか予備的な検討は、昭和の比較初期から幾度か繰り返された。やがて正式に改訳委員が決まり、実際の改訳作業が開始された。時は一九四二(昭和十七)年二月。まさに戦争のただ中であつた。戦火は聖書館にも及び、改訳委員会室は一九四五年五月の大空襲で被災した。しかし、幸いなことに翻訳原稿は地下の金庫に納められていて無事だった。

戦争が終わると、焼け残った一室で戦火をくぐり抜けた原稿の修正作業を実施し、分冊として発行したのが写真の「詩篇」と「ヨブ記」(いずれも文語改訳)である。戦前の文語訳の旧約は原則として一段組みで、詩文も改行無しで組まれていたが、これら分冊は、二段組、詩文が改行で組まれていることなど現代風の装いがこらされたものになっている。その他に「創世記」、「イザヤ書」など主要書の改訳原稿も進行していたので、旧約聖書の完成は十分期待できた。

にもかかわらず聖書協会は「詩篇」分冊発行の年、改訳作業の打ち切りを決定した。それは戦後間もなく制定された「当用漢字表」に象徴される国語とその表記面での著しい変化から、「文語体の聖書では、たとえ改訳が完成しても一般読者には読みにくく、

理解しがたいのではないか」との懸念が高まったためであつた。こうして聖書翻訳の文体は新・旧約とも口語訳に移行し、文語改訳の旧約聖書は、「幻の聖書」となった。

改訳委員たちの労苦は、出版完成という形では結実しなかったが、旧約聖書の翻訳上の遺産ともいえるべきものを残した。それまでの聖書で「エホバ」と表記されていた旧約の神名が文語改訳の分冊において初めて「主」に改められたことがその一例である。この表記は口語訳聖書とその後の多くの和訳旧約聖書で継承された。



文語改訳「ヨブ記」(1950年)、「詩篇」(1951年)と未刊に終わった「創世記」の原稿。

JBS History / Revised Japanese Classical Old Testament / Takagi Seigo

編集後記

近く二十一世紀を迎える私たちの社会は、どこへ向かっているのでしょうか。キリスト教は、この世に向かっているのでしょうか。また、聖書は、何を語るのでしょうか。

特集の座談会は、各界から三名の方々によって、二十一世紀の高齢化社会、人口増加の問題や経済、平和について展開されております。キリスト者としての歩みはとあるべきか、同等かの示唆が与えらることを願います。それぞれの切り口は違いますが、聖書のみ言葉を聴く真剣さに深い感銘を受けました。増島氏の書で語られてはいる日本人の心の在り方で、「私たちには異人を愛することの大切さ」と、その覚悟に欠けているのではないかと、その問い掛けに、積極的に対応していきたいと思ひます。(S)

次号予告

特集「新共同訳十周年」

(第11号) 1997年12月1日発行

◆ソアは、会員のための情報誌です。継続してお読みになりたい方は、後援会・維持会にご加入下さい。

発行所 第10号 JUNE 1997
発行 財団法人 日本聖書協会
〒104 東京都中央区銀座4-5-1
電話 03-3567-1980
FAX 03-3567-4436
振替 001600218410
表紙イラストレーション 本田年一
デザイン 株式会社デザイン・リンク
印刷 印刷株式会社